

# 道徳科

新保 拓実 眞田 裕人

## 道徳科における学び続ける子供とは

道徳科における学び続ける子供とは、道徳科における見方・考え方を働かせながら互いの考え方や感じ方を交流し合い、自己の道徳的価値観を見つめ直す中で生き方についての考えを深め、道徳的価値観を更新する子供である。

### 1. 目指す姿

道徳科において、子供が学び続けていくためには、道徳科における見方・考え方を働かせることが重要である。「道徳科における見方・考え方を働かせる」とは、様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に、自分との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えることである。この見方・考え方は学習を通して常に働き、子供一人一人の道徳性や道徳的諸価値と関連するものである。そして、一人一人が自分の道徳的価値観と照らし合わせながら、他者と考えを比較したり協働したりして見つめ直し、自己の生き方について考えを深めることで、道徳的価値観を更新する子供を目指す。

### 2. 子供の現状と課題（対話に着目して）

これまでの研究から、子供は、初めて見聞きする事実や行為、自分の考えにはない人物の行動や友達の考えと出合ったとき、自分の生活経験や既習事項に照らして受け止め、自分もつ道徳的価値観とのズレを感じることで、「自分はこう考えている」「自分のこの考えを伝えたい」など、自分の考えを分かってもらいたいという思いをもつことで他者に関わりを求めてきた。他者への関わりを求め始めた子供は、考え方は1つではなく、多様であることに気付き、他者の考えと自分の考えとを比較・検討していく。そして、自分の考えに見直しをかけることで問いをつくっていく。こうしてできた問いは自分もつ道徳的価値観だけでは処理しきれなくなり、子供が必要感をもって学習対象に関わり続けようとする中で、より一層他者の意見を聴こうとする。また、他者と考え方や感じ方を交流し合う中で、子供は自分の道徳的価値観を見つめ直し、人間としてよりよく生きるために大切なことについて考えたり、大切だと分かっているが実現できない人間の弱さに気付いたりしながら自己の生き方についての考え方を深めていく。

一方、道徳科の対話の課題として、他者と交流する中で多様な考えや問題意識をもつことが挙げられる。子供が事象と出合った際、社会通念や多数派の意見などによって、決まった考え方だけに偏って話し合いをする子供の姿が見られたからである。道徳科では、様々な考えや道徳的価値観に出会うことが大切である。道徳的価値観が多様であることを理解することで、よりよくなろうとする自己を肯定的に受け止め、他者との関わりや身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己について深く見つめることができるからだ。

この課題を解決していくためには、様々な事象を広い視野から多面的・多角的に考えることが重要である。そのため、考えている事象に対して違う道徳的価値観から話し合いの場を設けたり、違う立場や話し合った人物とは異なる登場人物の心情を捉えるための話し合いの場を設けたりすることが必要である。

### 3. 対話を通して学び続ける子供を育てるための具体的な手立てと想定される子供の姿

#### (1) 子供が必要感をもって学習対象と関わるために

子供は、初めて見聞きする事実や行為に出合ったとき、それまでの生活経験や既習事項に基づいて、事象に内在する道徳的価値を捉えていく。そして、それまでの自分の考えでは説明するこ

とができない人物の行動や友達の考えに出合うことで、子供は道徳的価値を捉え直す。そのような過程を経ることで、道徳的価値の理解をより確かなものとしていく。そこで、教師は次のような手立てを講じる。

#### ① 子供が感動や共感できる教材との出会い

教材と出合う場面では、子供が自分の生活経験と重ね合わせて考えることができたり、登場人物の人柄や行為に感動したり、共感したりできるようにする。その際に、子供がこれまでの生活経験を基に考え、教材や登場人物の行為に思いを寄せられるようにすることを重視する。

#### ② 生活経験や既習事項に基づき考えを伝え合う場の設定

子供が教材等に対して自分との関わりを強くもち、自分ごとで登場人物の人柄や道徳的価値に迫っていくために、これまでの生活経験や既習事項に基づき、内容項目や道徳的諸価値について考えを伝え合う場を設定する。

### (2) 子供が自ら問いをつくるために

子供はそれまでの自分の生活経験では説明できない友達の考えと出会い、ズレを感じることで問いをつくる。道徳的諸価値は子供のこれまでの生活経験によって多様であり、教材や登場人物の行為に対する思いの寄せ方も異なる。そのため、子供がもつ道徳的価値観を整理する。ここでは、教師は次のような手立てを講じる。

#### ① 発言だけでは捉えきれない子供の真意や深層の明確化

発言だけでは捉えきれない、発言の背景にあるそれぞれの子供の真意や深層（ズレの要因）を明らかにするために「どうしてそう考えたの?」「そう考えた根拠は何?」と問い返すことによって、子供に互いの道徳的価値の理解を深めるようにする。その際、資料に内在する深く理解させたい道徳的価値について十分に考える事ができるように、中心となる内容項目に即した話合いの場を設け、対話をする。

#### ② 子供の考えの背景について全体での共有化

教材や登場人物の行為に思いを寄せた子供の考えの背景を可視化し、表出された道徳的諸価値を対比的・関連的に板書に位置付け、比較・検討する。そうすることで、その行為や考えの背景が明らかになり、子供は道徳的諸価値を登場人物と自分で比較したり、自分の立場を位置付けたりして、自分の考え・立場を明確にし、道徳的諸価値の理解を深める。

### (3) 子供が自ら問いを解決するために

事象に内在する道徳的価値に対する問題意識を高めた子供は、自分のこれまでの経験や具体的な行動に当てはめて自分の道徳的価値観を見つめ直すなど、道徳的価値を自分ごとで捉える。そして、内容項目に即した話合いによって、捉えたことを様々な解釈や立場、解決のための視点等から考えをつくり、問いの解決を図る。また、子供はこれまでの自分の道徳的価値観と照らし合わせて考えたり、友達の考えと自分の考えを比較・検討して自分の道徳的価値観を客観的に位置付けたりして、事象に内在する道徳的価値を深く理解する。

さらに、友達の多様な感じ方や考え方に触れることで自分の特徴を知り、伸ばしたい自分を深く見つめる。そのためには、子供が自ら問いを解決し、次の活動に歩み出せるように、話合いをもとに道徳的諸価値を自分ごとで捉えることが重要である。そこで、話合いの中で聞いた友達の考えを基にして、自分だったらどうかと自分に内在する道徳的諸価値を見つめ直し、道徳ノートに振り返りを書いたり感想を述べたりする場を設ける。そうすることで、話合いだけでは感じられなかった道徳的諸価値について身近な集団の中での自分として特徴を実感し、自分の生き方として実現していこうとする思いや願いを深める。